

議員氏名：大沼 英樹

議案番号：陳情第12号

案 件 名：豪雨災害を踏まえたラディアン周辺行政機能等集約事業を防災上からの検証と見直し求める陳情について

討論内容：

私は、陳情第12号「豪雨災害を踏まえたラディアン周辺行政機能等集約事業を防災上からの検証と見直しを求める陳情」について、賛成の立場で討論をいたします。

ラディアン周辺の計画は、35億、56億と、二宮町に非常に大きな計画です。町民から心配や反対の声が多数上がっておりますが、9月議会、今議会ともに提出されている陳情にも耳を塞ぐような議会、町政では、未来ある町にはなれないのではないかと心配をいたします。

私は、8月30日の被災現場に際し、浸水被害の事実を間近で確認し、十分な検証、対策もせず、多額の費用支出を伴うラディアン周辺計画が進んでいくことは異常であり、非常に大きな問題だと思っています。

今後、大きな支出で町財政が厳しくなるのはもちろんのこと、現在、国会で議論が進んでいる103万円の壁を超えるとする所得税関連の政策は、地方交付税の大きな減収につながると言われております。そうなれば、さらに資金的な余裕がなくなり、過去30年以上も放置されてきた治水対策は、時間当たり雨量50ミリとする県の葛川整備に頼るだけで、町民の生命、財産を守るなどの言葉は消えうせ、局所的な集中豪雨の氾濫では、被災者置き去り、放置が今後も続くことになるかもしれません。

茨城県大子町の役場の例を見れば、純木造5,000平米の庁舎を、令和3年に総額20億円で完成させております。たくさんの樹木を使い、100年保存するという選択は、CO2発生低減に大きな貢献がある事実をよく理解すべきです。

現に、この二宮町は異常気象からの豪雨被害事実があるのですから、気候非常事態宣言や、ゼロカーボン宣言をポーズとするのではなく、少なくとも環境と資源の効率的、効果的な活用に対して、現実の取り組みとして、地球環境に貢献するべきであると思います。